



目次

- 改訂情報
- はじめに
- バージョンアップ内容
- システム要件
- 検証済み環境
- 制限事項
- 保証規程
- 著作権および特記事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2019-08-01	初版
------------	----

本書の目的

本書では IM-PDFDesigner for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品名

IM-PDFDesigner for Accel Platform は、IM-PDFDesigner for Accel Platform と IM-PDFDesigner for Accel Platform (多言語版) が統合され、一つのバージョンとして提供されます。

統合されたバージョンが、新規に

- IM-PDFDesigner for Accel Platform
- IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform

の2種類のバージョンにて提供されます。

名称	バージョン
IM-PDFDesigner for Accel Platform	8.0.11
IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform	8.0.11

IM-PDFDesigner for Accel Platform と IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform について

IM-PDFDesigner for Accel Platform と IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform の機能の違い

製品	含まれる機能
IM-PDFDesigner for Accel Platform	1. PDF帳票出力機能
IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform	1. PDF帳票出力機能 2. IM-LogicDesigner と連携しノンプログラミングでPDF帳票を出力する機能 3. RESTインタフェース経由でPDF帳票を出力する機能

製品体系の変更に伴い、ドキュメント体系が以下の通り変更となります。

「廃止」と表記しているドキュメントは、2017 Summer 以降ドキュメントライブラリサイトには掲載されません（廃止ドキュメントの内容は統合先のドキュメントに統合します）。

廃止ドキュメントはアーカイブサイトには残ります。

ドキュメント名	2017		
	以前	Spring 2017	Summer 2017
IM-PDFDesigner for Accel Platform リリースノート	あり	あり	—
IM-PDFDesigner for Accel Platform プログラミングガイド	あり	あり	—
IM-PDFDesigner for Accel Platform セットアップガイド	あり	あり	—
IM-PDFDesigner for Accel Platform (多言語) リリースノート	あり	廃止	IM-PDFDesigner for Accel Platform リリースノート
IM-PDFDesigner for Accel Platform 多言語ガイド	あり	廃止	IM-PDFDesigner for Accel Platform プログラミングガイド / IM-PDFDesigner for Accel Platform セットアップガイド
IM-PDFDesigner for Accel Platform IM-LogicDesigner連携 操作ガイド	—	新規	—

用語解説

名称	略称
intra-mart Accel Platform	iAP と略します。
IM-PDFDesigner for Accel Platform	IM-PDFDesigner と略します。

製品の概要

IM-PDFDesigner は、iAP 上でPDF形式の帳票を作成するための追加アプリケーションです。

PDFファイルは、IOWebDOC デザイナーツールで作成した レイアウト定義ファイル と ユーザ入力データ または、CSVファイルなど を用いて作成します。

また API を使用してプログラムを作成することにより、その時必要な内容で PDFファイルを作成できますので、Webで最新の情報一覧をダウンロードしたり、一定期間の履歴情報をバッチプログラムで収集した結果を PDFファイル で保管したりなど、様々な場面で幅広くご利用いただくことができます。



コラム

IOWebDOC (アイオーウェブドック) とは...

WEBブラウザ上でPDFファイルを作成するための ランタイム (実行モジュール) です。

詳細は、下記を参照してください。

<http://www.iothe.co.jp/pdfyss/product/iowebdoc.html>

多言語出力に対応しました。

PDF出力エンジン部分の IOWebDOC は、

- IOWebDOC (1.9.x)
- IOWebDOC (3.x.x)

の2種類から選択できます。

IOWebDOC (1.9.x) と IOWebDOC (3.x.x) の違い

- 扱えるデータの文字コードが異なります。 IOWebDOC (1.9.x) はMS932 (SJIS) です。 IOWebDOC (3.x.x) はUnicode(UCS-2)です。 設定方法は後述しておりますので、手順に従って設定してください。
- 帳票エンジン (IOWebDOC) の製品バージョン / 帳票エンジン (IOWebDOC) のインストーラそのものが異なります。
- 帳票レイアウトファイル (dlf/ioc/def/clf/ddl等...) の形式が異なります。後述しておりますので、保存する際に IOWebDOC (3.x.x) に対応した形式で保存してください。

IOWebDOC (1.9.x) と IOWebDOC (3.x.x) の判別方法

帳票エンジン (IOWebDOC) がインストールされたマシンにログインし、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

[Windows環境]

```
C:\> iowebver  
IOWebDOC 64bit Version x.x.x.x ← 実際はダイアログに表示されます。
```

[Linux環境]

```
> $IODOC/bin/iowebver  
IOWebDOC 64bit Version x.x.x.x
```

バージョン番号が、1.x.x.x の場合は、 IOWebDOC (1.9.x) 、
バージョン番号が、3.x.x.x の場合は、 IOWebDOC (3.x.x) です。

— IM-PDFDesigner for Accel Platform 2019 Summer リリースノート 初版 2019-08-01
【重要】 IOWebDOC (1.9.x) と IOWebDOC (3.x.x) どちらをインストールすべきかの判断基準

IOWebDOC (1.9.x) をインストールする場合	既存システムのリプレイスまたはバージョンアップで、以前より IM-PDFDesigner for Accel Platform を利用しているシステムの場合
	日本国内のみでの利用であり、文字コードとしてMS932の範囲内の利用で問題がないシステムの場合
IOWebDOC (3.x.x) をインストールする場合	IM-PDFDesigner for Accel Platform を利用したシステムを新規に構築する場合
	UNICODE文字の出力が必須のシステムの場合

注意事項

- IOWebDOC (1.9.x) と IOWebDOC (3.x.x) ではフォントの扱いの差異により、フォント位置の差異/オブジェクトの見た目の差異等が発生する場合があります。 IOWebDOC (1.9.x) から IOWebDOC (3.x.x) へ移行する際には、必ず全帳票に対して出力確認をお願いいたします。
- IOWebDOC (3.x.x) では、フォントの埋め込みが必須です。
- Linux環境では、フォントのライセンスにより埋め込み目的で利用できないフォントがあります (MSゴシック/MS明朝など...)。帳票内の利用フォントを別のフォントに変更いただく必要があります (IPAゴシック/IPA明朝など...)。

新帳票ツール (IOBDOC) を追加しました。

- 連票用のツールです。
- 新帳票ツール (IOBDOC) を利用する場合は、 IOWebDOC (3.x.x) のインストールが必須です。 IOWebDOC (1.9.x) 利用時は、新連表ツール (IOBDOC) は利用できません。

RESTインタフェース機能を追加しました。

- APサーバとは別に PDF帳票サーバ を構築し、各APサーバが PDF帳票サーバ を共有して利用する構成が選択できます。

API 等のモジュールの動作環境は、iAP の仕様に準拠します。

また、IOWebDOC (レイアウトデザインツールなど) に関しては、帳票エンジン (IOWebDOC) の仕様に準拠します。

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。

サーバ要件

- intra-mart Accel Platform 2019 Summer (Standard Edition、Advanced Edition、Enterprise Edition)
- 利用する intra-mart Accel Platform のサーバ要件に準拠します。

インストール時に必要なサーバ要件は次の通りです。

種別	製品名
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">▪ Windows Server 2012 / 2012 R2 / 2016 日本語 (64 bit)▪ Red Hat Enterprise Linux 6 / Red Hat Enterprise Linux 7 / Red Hat Enterprise Linux 7.1 日本語 (64 bit)
必要メモリ容量	<ul style="list-style-type: none">▪ 4GB以上
必要ディスク容量	<ul style="list-style-type: none">▪ 約 20 MB + IOWebDOC ランタイム分



コラム

必要ディスク容量に関しては、扱うデータや作成するPDFファイルなど 各種ファイルの大きさに依存します。

また、PDFファイル作成時には一時ファイルを作成していますので、作業領域としてのディスク容量を必要とします。

バージョンと連携エンジンの整合性確認表

本製品は連携するライブラリのインストールが必要です。

対応しているバージョンは以下になりますので、正しい組み合わせでご使用ください。

帳票レイアウトを作成する場合は同じバージョンのデザインツールをご使用ください。

		IM-PDFDesigner 連携ライブラリ (IOWebDOC)	
アップデートバージョン		Ver.1.9系	Ver.3.X系
2012 Winter	(8.0.0)	1.9.2.3	
2013 Winter	(8.0.1)	1.9.2.6	

IM-PDFDesigner 連携ライブラリ(IOWebDOC)

アップデートバージョン		Ver.1.9系	Ver.3.X系
2014 Spring	(8.0.2)	1.9.2.6	
2015 Spring	(8.0.4)	1.9.3.0 - 1.9.5.0.2	
2016 Summer	(8.0.5)	1.9.3.0 - 1.9.5.0.2	
2016 Winter	(8.0.6)	1.9.3.0 - 1.9.5.0.2	
2017 Spring	(8.0.7)	1.9.3.0 - 1.9.5.0.2	
2017 Summer	(8.0.8) Windows版	1.9.4.0 - 1.9.5.0.2	3.3.2.5 - 3.5.1.5
	(8.0.8) Linux版	1.9.4.0 - 1.9.4.1	3.3.2.0 - 3.4.0.0
2017 Winter	(8.0.9) Windows版	1.9.4.0.5 - 1.9.5.0.2	3.3.4.1 - 3.5.1.5
	(8.0.9) Linux版	1.9.4.0 - 1.9.4.1	3.3.4.0 - 3.4.0.0
2018 Spring	(8.0.10) Windows版	1.9.4.0.6 - 1.9.5.0.2	3.4.0.2 - 3.5.1.5
	(8.0.10) Linux版	1.9.4.1	3.4.0.0
2018 Winter	(8.0.11) Windows版	1.9.5.0.2	3.5.1.5
	(8.0.11) Linux版	1.9.4.1	3.4.0.0
2019 Spring	(8.0.12) Windows版	1.9.5.1.1	3.5.3.3
	(8.0.12) Linux版	1.9.5.1.2	3.5.3.0
2019 Summer	(8.0.13) Windows版	1.9.5.1.1	3.5.5.3
	(8.0.13) Linux版	1.9.5.1.2	3.5.4.0



コラム

IOWebdoc Ver.1.9.X系は旧互換版です。

IOWebdoc Ver.3.X系は多言語版です。

バージョンの違いについては、[バージョンアップ内容](#)を参照してください。

クライアント要件

iAP のクライアント要件に準拠します。

- Adobe Reader 9.0 以降 (作成したPDFファイルを閲覧するため)

また、IOWebDOC のレイアウトデザインツールの要件は次の通りです。

種別	製品名
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">■ Windows 7 (32bit/64bit)■ Windows 8 / 8.1 (32bit/64bit)■ Windows 10 (32bit/64bit)



警告

各ベンダーより提供される、サーバ・クライアント製品のサポート終了に伴う、弊社製品の対応方針について

下記を参照してください。

参考 : http://dev.intra-mart.jp/product_policy/ (日本語)

Microsoft Windows 10 については、公式がサービスを終了するバージョンはサポート対象外です。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/13853/windows-lifecycle-fact-sheet> (日本語)

<https://support.microsoft.com/en-us/help/13853/windows-lifecycle-fact-sheet> (English)

ライセンス要件

- IM-PDFDesigner 1ライセンスには、
 - ・ 1ツールライセンス
 - ・ 1ランタイムライセンスが付属します。
- ツールライセンスとランタイムライセンスの違いは、以下です。
 - (1) ツールライセンス
 - 帳票レイアウト作成用のレイアウトツールのライセンスです。クライアントPCで 帳票レイアウト を作成する際に利用します。
 - (2) ランタイムライセンス
 - 実際に iAP 上で動くサーバ側のモジュールのライセンスです。
- ツールライセンスは、帳票レイアウトの設計用途で、ランタイムをインストールしたマシンとは別のマシン上でご利用いただけます。
ツールライセンスはランタイムライセンスとして、またはランタイムライセンスはツールライセ

— IM-PDFDesigner for Accel Platform 2019 Summer リリースノート 初版 2019-08-01
ンスとしては利用できませんので注意してください。

- 開発などでサーバマシンと開発マシンを分けたい場合は、サーバマシン上に別途ランタイムライセンスが必要です。
- IM-PDFDesigner を、APサーバ毎にインストールする構成の場合、APサーバ台数分のランタイムライセンス (IM-PDFDesigner および 帳票エンジン : IOWebDOC) が必要です。
- IM-PDFDesigner を、PDF帳票サーバを構築してインストールする構成の場合、PDF帳票サーバ台数分のランタイムライセンス (IM-PDFDesigner および 帳票エンジン : IOWebDOC) が必要です。

- 以下、弊社動作検証済みの組み合わせとなります。

IM-PDFDesigner for Accel Platform 環境

intra-mart Accel Platform	WEBアプリ ケーション サーバ		RESTサーバ (分散環境の 場合)	
		Java		Java
intra-mart Accel Platform 2019 Summer	Resin 4.0.58	OpenJDK 11	Tomcat 8.0.21	OpenJDK 11
intra-mart Accel Platform 2019 Summer	Payara 5.182	JDK 1.8.0_211	Tomcat 8.0.21	JDK 1.8.0_211

IM-PDFDesigner for Accel Platform をご利用いただくにあたり、以下の制限事項があります。

制限事項

- IM-PDFDesigner for Accel Platform、IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform の2種類のバージョンが提供されます。機能の違いおよび、利用可能な構成を事前にご確認してください。
- IOWebDOC (1.9.x) と IOWebDOC (3.x.x) が同梱されます。制限事項を事前にご確認してください。
- Unicodeに含まれない文字を扱うことはできません（扱える文字集合は、Unicode(UCS-2)です）。
- サロゲートペア文字には対応していません。
- 一つの識別子内に複数の言語を混在させることはできません。
- 利用可能なフォントの制限があります。
- 帳票に、プロポーションナルフォントは利用できません。
- 帳票レイアウト移行後にフォントの位置等がずれる場合には、帳票レイアウト上で位置の調整をお願いいたします。
- IOWebDOC (3.x.x) はフォント関連の処理（フォントの埋め込み処理など...）を行うことから、IOWebDOC (1.9.x) よりも処理に時間がかかります。導入前に、必ず想定されている環境にて事前に処理速度を検証ください。
- Linux版では、パスワードに “(ダブルクォート) ’(バッククォート) \$(ドル記号) は利用できません。
- 実行ファイル/帳票レイアウトファイルの配置パスは 128bytes 以内の制限があります。

帳票エンジン (IOWebDOC) のバージョン

OS	IOWebDOC バージョン
Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 / 2016	1.9.5.2
	3.5.1.4
Red Hat Enterprise Linux 6 / Red Hat Enterprise Linux 7 / Red Hat Enterprise Linux 7.1	1.9.4.1
	3.4.0.0

また、レイアウトデザインツールは、下記バージョンです。

OS	IOWebDOC バージョ ン
Windows 7 / 8 / 10	3.5.1.4



注意

必ず同梱されている IOWebDOC をインストールしてください。
上記以外の IOWebDOC では、動作しませんので注意してください。

OSがサポートする文字コードと異なる文字コード体系のデータを扱う場合、動作しない・文字化け現象が発生する場合があります。

旧バージョンから移行する場合、本製品のインストール前に必ず旧バージョンをアンインストールしてください。

旧バージョンをアンインストールせずに本製品をインストールした場合、誤動作の原因となる場合があります。

PDFの文書情報に2バイト文字はご利用頂けません。

レイアウトの識別子名は半角29文字以内としてください。

通常のJavaアプリケーションと同様にファイル出力が競合しないよう、上位アプリケーション側で制御する必要があります。

- システムで重複しない出力ファイル名を使用する。
- ダブルクリックを防止する。

仕組みを上位アプリケーション側で実装する必要がありますので注意してください (未実装の場合、システムが不安定になる可能性があります)。

出力ファイル名については、上位アプリケーション側でシステムで重複しないIDを生成しファイル名にご利用願います。

ダブルクリック防止機能については、スクリプト開発モデルであれば `isDoubleClick()` がご利用頂けます。

JavaEE開発モデルであれば `DbClickForbidden` タグがご利用頂けます。

ともにイントラマートに標準のAPIです。詳細については、イントラマートAPIマニュアルを参照してください

帳票で利用可能なフォント（固定幅フォント限定）

固定幅フォントのみ利用可能です。プロポーショナルフォントは使用できません。

PDFファイルへのフォントの埋め込み

PDFファイルへのフォントの埋め込みが必須です。

UNIX/Linux環境での連票(IOCELA)レイアウトの改行コードを LF に変更する必要があります。

連票レイアウトファイル(IOCELA)の改行コードは、標準で CRLF にて出力されます。

UNIX/Linux環境でご利用いただく場合には改行コードを LF に変換する必要があります。

サーバにアップロードする場合には、

1. ASCIIモードでサーバにFTP転送し、自動的に改行コードを変換する。

または、

2. テキストエディタ等を利用して改行コードを LF に変換して保存し、バイナリモードでFTP転送する。

いずれかの手法が必要になります。

点

モバイル端末（iOS やAndroid 等の非WindowsOS）にてPDFファイルを閲覧する場合、PDFファイルにフォントが埋め込まれていないと、PDFファイルの見た目が崩れる可能性があります。

原因

製品のデフォルトの設定においては、PDFファイル内部では、フォント名・フォントサイズなどのデータが格納されており、フォントファイル自体は存在していません。

通常PDF ファイルを表示する場合、フォント名・フォントサイズなどのデータを閲覧する機器内のフォントファイルを利用し表示されています。

AdobeReader の場合は該当フォントが端末上に存在しない場合はそのフォントに近い代替フォントを表示させる機能(すべてのフォントの代替はしない)があります。

PC やモバイル端末においては同じフォントが存在しない場合があります (特に利用頻度が高いMicrosoft系のフォントは、通常は Windows にしか入っていません)。

PDF ファイルを表示した場合、フォントの幅等が違うものが参照され、対象ドキュメントの表示が崩れた状態です。

対応策

フォント埋め込み済みのPDFファイルの場合、参照フォント情報はPDFファイル内のものから対応し、正確な表示です。

モバイル端末でPDF ファイルを表示させる場合は、必ずフォントの埋め込み処理を行い、表示の崩れを防いでください。

フォント埋め込みの設定方法については、各製品のマニュアルを参照ください（一部の製品はフォント埋め込みに対応していません）。

注意点

PDF にフォントを埋め込む場合、参照フォント領域がPDF に追加される為、出力されるPDF ファイルのサイズが大きくなります。

これはPDF ファイルの仕様です。

どれくらいファイルサイズが大きくなるのかに関しては、実際のファイルにて事前にご確認してください。

IOWebDOC (3.x.x) 利用時のサポート言語およびフォント

言語	利用可能なフォント	
日本語	MS ゴシック、MS 明朝、IPAゴシック、IPA明朝	
英語	Courier New	
中国語	繁体字	MingLiU
	簡体字	SimHei
韓国語	GulimChe	

- 多言語を利用するには、IOWebDOC (3.x.x) のインストールが必須です。
- 既存システムのリプレースでIM-PDFデザイナー Ver.7.x から移行する場合、帳票で使用しているフォントを変更する必要があります。
- IM-PDFDesigner for Accel Platform(多言語版) では、PDF出力時に日本語/英語/中国語/韓国語のフォントが利用できます。
- 固定幅フォントが利用できます（帳票ツール上でプロポーショナルフォントを指定することは可能ですが利用できませんので注意してください）。
- Windows用のTrueTypeフォントが利用できます。
- 作成したPDFファイルを配布する場合は、埋め込んだフォントに再配布の許諾があることを事前にご確認してください。
- 縦書き用でないフォントで縦書き出力した場合、文字の出力位置がずれる場合があります。
- 指定外のフォントを利用した帳票の出力結果は保証されません。
- 一つの帳票上で一つの言語の文字を配置できます。
- 利用フォントで指定した文字コードの字形が用意されていない場合、文字は正しく出力されません。
- 埋め込みが許可されていないフォントは使えません。事前にフォントのライセンスをご確認ください。
- Linux環境では、MSゴシックやMS明朝等のマイクロソフト社がライセンスを保有しているフォントは埋め込み目的で利用することはできません。MSゴシックの場合はIPAゴシック、MS明朝の場合はIPA明朝を利用ください。
- RESTモジュールとIM-LD連携モジュールは共存できません。IM-LD連携モジュールを利用する場合は、RESTモジュールは選択しないでください。

サポートする文字集合

言語	サポートする文字集合
日本語	JIS X 0213:2004
英語	ISO8859-1、ISO8859-15 CP1252
中国語	GB18030:2000
韓国語	KS X 1001:2007

入力ファイルのエンコーディング

IOWebDOC (3.x.x) では、入力ファイルにUnicodeやShiftJISが利用できます。エンコーディングがUnicodeの場合は、実装水準1に対応しています。なお、実装水準1に結合文字は含まれません。入力ファイルの文字は、次に示すエンコーディングを使用して変換します。入力ファイルに対するエンコーディングを間違えると、文字化けが起きたり空白が出力されたりする場合があります。

入力ファイル	エンコーディング
帳票ファイル (IODファイル)	UTF-8、ShiftJIS
マッピング (CDDファイル)	ロケールに対応する文字コード
データファイル (DAT、CSV)	UTF-16、UTF-8、ロケールに対応する文字コード
環境設定ファイル	UTF-16、UTF-8、ロケールに対応する文字コード

- BOM (Byte Order Mark) を付与したUTF-16エンコーディングで変換します。
- UTF-8で表現できる文字 (1バイト～2バイト) の中に不正なコードが使用されている場合、正常に出力されない可能性があります。
- ロケールに対応する文字コードで変換した場合、ロケールごとにデフォルトのエンコーディングが異なります。
- 英数字以外のファイル名は利用できません。

入力ファイルの対応するエンコーディングとBOM (Windows環境)

BOM	エンコーディング方式	対応
FEFF	UTF-16 (ビッグエンディアン)	対応していません。UTF-16 (リトルエンディアン) または、UTF-8を利用ください。

BOM	エンコーディング方式	対応
FFFE	UTF-16（リトルエンディアン）	対応しています。
EFBBBF	UTF-8	対応しています。
なし	MS932（SJIS）	対応しています。

- UTF-8/UTF-16でデータを渡す場合、BOMが必須です。
- UTF-16（ビッグエンディアン）のデータは利用できません。UTF-16（リトルエンディアン）または、UTF-8を利用ください。
- BOMがない場合、MS932（SJIS）として処理されます。
- ログファイルは、UTF-16（リトルエンディアン）BOM付で出力されます。

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

及び制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用することを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、又は当社ホームページ（<http://www.intra-mart.jp/document/library/?product=pdfd>）に

掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。

また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価として

イントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザ登録を完了されたお客様のみに行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）
その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事情による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

— IM-PDFDesigner for Accel Platform 2019 Summer リリースノート 初版 2019-08-01
本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、
本書の記載が優先するものとします。

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

以上